

## 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 中口 義次	提出日：平成22年12月26日
<b>東南アジア研究所における職名：</b> * 右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・ <b>助教</b> ・助手・ポスドク・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
<b>派遣先の研究機関等（調査を実施した国名・機関名及びカウンターパートの研究者名）：</b> ベトナム、国立衛生疫学研究所、Nguyen Binh Minh * 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。(大学・ <b>研究機関</b> ・企業・その他)	
<b>派遣期間：</b> 平成22年9月4日 ～ 平成22年9月27日 (派遣日数：24日)	
<b>研究活動等の主な内容（該当する番号に○をつけてください。複数可）</b> ① <b>研究・実験</b> 、②フィールドワーク、③セミナー、④インターンシップ、⑤サマースクール等の講習、⑥学会出席、⑦単位取得等、⑧その他	
<b>研究活動の主な領域（該当する番号に1つ○をつけて下さい。）</b> ①人文学、②社会科学、③数物系科学、④化学、⑤工学、⑥生物学、⑦農学、⑧ <b>医歯薬学</b> 、⑨総合領域、⑩複合新領域	
<b>派遣の概要（500～700字程度）</b> グローバル化・ボーダーレス化が急激に進む現在において、感染症を引き起こす病原体でも、急激なグローバル化が問題となっている。腸炎ビブリオ感染症は、海洋性細菌の腸炎ビブリオの病原性菌株で汚染された魚介類の生食により引き起こされる下痢症である。ベトナムでは1986年以降、改革開放路線のドイモイ政策が提起され、経済成長が急速に進んでいる。そのような中、ベトナム人の食生活および食習慣も大きく変化している。経済発展に伴う健康志向から食としての魚介類が注目され、その生産および消費が増加している。そのようなことから、ベトナム国内で発生がほとんど報告されていない腸炎ビブリオ感染症が広く発生していると考えられ、ハノイにおいて現地の主要な衛生研究機関である国立衛生疫学研究所（National Institute of Hygiene and Epidemiology, NIHE）の現地研究者と共同で、腸炎ビブリオ感染症の発生状況および食品（魚介類）の病原性菌株による汚染を調べた。	
<b>事業に係る研究成果（500～700字程度）</b> 到着後、ベトナムの国立衛生疫学研究所の細菌感染症部門の Nguyen Binh Minh 准教授とその研究室の研究者と研究計画および実験方法の打ち合わせを行った。ハノイの市中病院の下痢症患者からの糞便サンプルおよび市内の市場で購入した魚介類（主に二枚貝類）から腸炎ビブリオを分離し、病原性菌株の確認を実施した。腸炎ビブリオを分離する方法は、選択培地法（クロモアガービブリオ培地を使用）により行い、病原性菌株の確認は、各種PCR法を採用し、NIHEの施設および設備を使用して実施した。その結果、ハノイで一般的な市中病院での下痢症患者全体の10%以上が、腸炎ビブリオ感染症によるものであることが明らかとなった。また市中で売られている魚介類が、腸炎ビブリオ感染症を引き起こす病原性菌株で汚染されていることが確認された。東南アジアの他の国々で、下痢症患者に占める腸炎ビブリオ感染症患者の割合は5%前後だといわれている中で、今回のベトナムでの腸炎ビブリオ感染症患者の割合は、かなり高いことがわかった。分離菌株の遺伝子型を詳細に調べたところ、アジアから世界中に広がった世界的大流行株による腸炎ビブリオ感染症が80%以上を占めていることが明らかとなった。 これらの結果は、ベトナムに暮らす人々の健康および食の安全性を考える上で非常に重要な情報になるため、現地の共同研究者とともに、研究成果の報告を論文にまとめると同時に、政府機関への報告を予定している。 この派遣における研究成果は、2010年11月25-26日に開催される腸炎ビブリオシンポジウム、2010年12月3-4日に開催される日本熱帯医学会、2010年12月6-8日に開催される日米医学協力会議コレラ・下痢症部会において、発表をすることになっている。	